

魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年2月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、2月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

令和4年2月定期報告

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁	非公開
東予	地域	1	考える農業をテーマに「土壌肥料勉強会」開催	1	
東予	地域	2	「愛媛果試28号」・「甘平」のせん定講習会を開催	1	
東予	地域	3	鳥獣害対策強化に向け、関係機関が連携	2	
東予	四中	4	漁家と農家で交流を！～食文化普及講座～	2	
東予	四中	5	うま茶振興協議会 ステップアップの活動2年目へ向け、総会を開催	3	
東予	産地	6	抽苔抑制のための液肥実証を開始	3	
今治	地域	7	さといも機械化一貫体系における防除作業の省力化	4	
今治	地域	8	地元高校生を対象とした就農啓発講座をオンラインで開催	4	
今治	地域	9	今治市生活研究協議会によるコロナ禍に対応した家庭向け食育活動を支援	5	
今治	地域	10	ニホンザル対策について南予地域とオンライン意見交換	5	
今治	しまなみ	11	花き栽培農家が家族経営協定を締結	6	
今治	しまなみ	12	新規就農者の就農状況面談を実施	6	
今治	産地	13	甘長とうがらし栽培技術検討会の開催	7	
中予	地域	14	天敵を利用した施設なすの栽培開始	8	
中予	地域	15	傾斜かんきつ園地でのドローン防除実証、「せとか」黒点病防除効果を調査	8	
中予	地域	16	農業経営管理研修会の実施	9	
中予	地域	17	就農者への巡回指導を実施	9	
中予	地域	18	青年農業者2グループがそれぞれ2事業所と合同マッチング会を開催	10	
中予	伊予	19	一次産業女子グループ「葉れるや」のマルシェ開催中！	11	
中予	伊予	20	砥部町青年農業者が、「愛媛果試第28号」のせん定見本樹を設定	11	
中予	伊予	21	農業公園研修生が土壌分析結果をもとに施肥設計の方法を学ぶ	12	
中予	伊予	22	社員食堂の愛媛フェアで東温産パクチーのメニュー化が決定	12	
南予	地域	23	南予地域の農業法人の取組や農業の魅力を高校生に広く紹介	13	
南予	地域	24	次年度のさといも増産に向けて	13	
南予	地域	25	新規就農者の技術力アップに向けニューファーマー講座を開催	14	
南予	地域	26	青年農業者が石積み技術を習得！	14	
南予	地域	27	宇和島市玉津地区再編復旧かんきつ園地の営農再開に向けて	15	
南予	鬼北	28	新規大規模くり園本格準備開始！	16	
南予	鬼北	29	加工桃もも排水対策モデル園、さらなる樹冠拡大を目指す！	16	
南予	鬼北	30	新規栽培者向けきゅうり栽培塾の開催	17	
南予	鬼北	31	松野町産「さくらひめ」の品質向上に向けて！	17	
南予	愛南	32	「河内晩柑」の適切な苗木植え付けで省力化を推進	18	
南予	愛南	33	ブロッコリー「根こぶ病」の実証結果まとめ、新たに春どり品種選定実証スタート	19	
南予	愛南	34	就農相談会で就農を促す	20	
南予	産地	35	ゆず部会役員会で縮間伐試験の結果を報告	21	
南予	産地	36	6次産業化に取り組むうめ生産者の商品をブラッシュアップ	21	
南予	産地	37	令和3年度「第9回南予マルシェ」を開催	22	

八幡浜	地域	38	農事組合法人の経営力強化に向けた研修会を実施	23
八幡浜	地域	39	一次産業女子目線で農業の魅力発信！	23
八幡浜	地域	40	急傾斜地かんきつ園のスマート農業推進に向け、広島県の普及組織と情報交換を実施	24
八幡浜	地域	41	八西地区の農業振興を農業指導士と意見交換	24
八幡浜	地域	42	快適な作業環境への改善を目指し、農作業安全研修会を開催	25
八幡浜	大洲	43	研修生の就農をサポートチームで支援	26
八幡浜	大洲	44	新規鳥獣管理専門員がイノシシの捕獲に成功！	26
八幡浜	大洲	45	高品質生産に向けていちご農家を巡回	27
八幡浜	大洲	46	認定農業者と青年農業者の合同研修会を2年ぶりに開催	27
八幡浜	西予	47	いちごの高品質栽培に向けた若手普及職員研修を開催	28
八幡浜	西予	48	いちごIPMの推進 天敵であるアザミウマを放飼	29
八幡浜	西予	49	災害を乗り越え、農業法人が野村町内にスイーツ店をオープン	30
八幡浜	西予	50	加工・業務用青ねぎの生育・収穫予測システムについて開発会社らと導入を検討	30
八幡浜	産地	51	フィンガーライムの加工品開発に向けて始動！	31
農産園芸	高度普及	53	「甘平」の裂果対策に向けた現地実証から裂果メカニズムを解析	32
農産園芸	高度普及	54	「ひめの凜」食味値に影響する栽培要因を分析	33
農産園芸	高度普及	55	栽培現地と研究機関、県庁、地方局等を結んだ遠隔診断の実施	34
農産園芸	高度普及	56	リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用した害虫遠隔診断の実施	35
農産園芸	高度普及	57	露地しょうがにおける土壌病害の発生抑制に向けた土壌消毒実証	36
農産園芸	高度普及	58	流通・経営調査研究会で、卸売市場及びJAの共選販売を分析	37
農産園芸	企画調整	59	普及指導計画取組状況報告会をリモートで開催	38

東予地方局 地域農業育成室

■考える農業をテーマに「土壌肥料勉強会」開催

- 地域農業育成室は2月22日、24日、就農10年以下の農業者17人を対象に、土壌分析と家畜堆肥の利用法に関する勉強会を開催した。
- この勉強会では、「考える農業」をテーマに、12月から8回講座で土づくりに向けた施肥設計等の技術習得に取り組んでおり、今回が6回目。
- 当日は、当室職員がpHとECに基づく施肥設計の立て方と測定方法を説明後、各自が持ち寄った土壌を実際に測定した。参加者からは、今後の栽培に活かせる技術が習得でき生産意欲が向上したと好評であった。
- 次回は、農業指導士を講師にトラクターのメンテナンス、水田での耕起、畝立て、マルチ張り等の内容で計画しており、新規就農者の早期の経営自立を支援する。



土壌分析の方法を説明



堆肥の分解の仕方を実演

■「愛媛果試第28号」・「甘平」のせん定講習会を開催

- 地域農業育成室は2月22日、四国中央市内において「愛媛果試第28号」と「甘平」のせん定講習会を開催し、生産者41人が参加した。
- 会では四国中央農業指導班と連携し、生産者の高齢化に伴った労働安全の確保や作業性の改善に向けたせん定方法を中心に指導するとともに、高品質果実生産に向けた今後の管理（施肥、防除）のポイントを説明した。
- 当室は、今後も県オリジナル品種の高品質果実生産による農家所得の向上を目指した技術支援を行う。



せん定技術を熱心に聴講する生産者

■鳥獣害対策強化に向け、関係機関が連携

- 地域農業育成室は2月15日、西条市鳥獣害対策担当者会を開催し、ニホンザルの被害対策と次年度の取組内容について協議した。
- 今回で4回目となる当会では、えひめ地域鳥獣管理専門員である今治支局地域農業育成室職員から今治市における先進的なニホンザル対策の事例紹介を行い、対策推進に向けた体制づくりや対策実施状況とその効果等を情報共有した。
- 西条市では、来年度以降、鳥獣害対策の強化に向けて、鳥獣害に立ち向かう地域づくりの推進事業に新たに取り組むこととしており、関係機関をはじめ管内のえひめ地域鳥獣管理専門員（市職員、JA職員、普及指導員）が連携し支援する。



ニホンザル対策について協議

東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

■漁家と農家で交流を！～食文化普及講座～

- 四国中央農業指導班は2月17日、漁家と農家の郷土料理を継承するため、四国中央生活研究協議会しおさいグループの食文化普及講座を支援した。
- 同グループが活動する川之江地域は漁家と農家が混在しているため、それぞれで調理される郷土料理の相互継承について提案し、グループ員を含む7人が参加。
- 漁家からは「いりこ味噌」、農家からは「さといも郷土料理」について、調理、紹介し、食文化の相互継承を図った。
- 当班は、今回調理した郷土料理を写真等で記録し、技術継承と食文化普及のためのデータベースとして活用するとともに、今回の取組がきっかけとなり、活発な地域間交流につながるよう支援を継続する。



漁家と農家による郷土料理の相互継承

■うま茶振興協議会 ステップアップの活動2年目へ向け、総会を開催

- 四国中央農業指導班は2月15日、茶産地の労働力確保とお茶の販売強化に向けて、四国中央市農業振興課とともに、うま茶振興協議会総会を開催した。
- 総会では、設立から1年の活動を振り返るとともに、商標登録申請中の愛称を用いたブランド展開方法や、コロナ禍における茶のある生活スタイルの提案等の計画が承認された。
- また、当班から担い手確保と育成に係る人材派遣事業や他県の先進事例を紹介し、地域に見合った人材の確保・育成方法について協議した結果、まずは、令和4年3月から農家向けの研修生を募集することとした。
- 当班では、今後も同課と連携して、同協議会による、うま茶の販売と人材確保の活動の後押しや地元の飲食店等の協力により消費者の認知度アップに取り組むとともに、生産振興を支援する。



R4年度活動計画を協議

東予地方局 産地戦略推進室

■抽苔抑制のための液肥実証を開始

- 産地戦略推進室は2月7日と14日の2回、加工用青ねぎの抽苔（ねぎ坊主）抑制のための液肥散布を行った。
- これは、花芽分化期の肥料濃度を高めることで、春先の品質低下につながる抽苔を抑制することを目的に行ったもので、4品種（新品種1、既存品種3）について、液肥の濃度を変えて散布した後、植物体の肥料濃度や花芽分化を定期的に調査している。
- 現在、品種間較差はあるものの、植物体の肥料濃度に差が見え始めており、春先の抽苔抑制が期待される。



左：新品種「春京香」、
右：既存品種「緑秀」の生育状況

東予地方局今治支局 地域農業育成室

■さといも機械化一貫体系における防除作業の省力化

- 地域農業育成室は、さといも機械化一貫体系を進めるため、JAおちいまばりと共同で、ハイクリアランスブームスプレーヤで防除したさといもの収量調査を行った。
- 同防除機による作業時間は30a(2ほ場)で50分程度と、手散布に比べて大幅な短縮(80%減)が図れるが、車体が通過する際に茎葉との擦過が生じる。
- その結果、機械の旋回場所など擦過が多発する場所において、孫芋の着生数や芋重が約20%減少しており、ほ場全体収量を推計すると約3%の減収となった。
- 大規模栽培をしている法人からは「一度利用したら、もう手散布には戻れない」との声もあり、減収分を相殺する以上の作業負荷軽減効果が認められることから、当室は農林水産研究所とも連携して、地域全域での利用拡大に向け推進する。



ハイクリアランスブームスプレーヤによる
薬剤防除



さといもの収量調査

■地元高校生を対象とした就農啓発講座をオンラインで開催

- 地域農業育成室は2月7日、高校生の就農への関心を高めることを目的に、今治南高校1、2年生43人を対象として就農啓発講座をオンラインで開催した。
- 講座では、地元青年農業者2人が、就農までの経緯や農業の魅力等について熱く語った後、今治市青年農業者協議会の活動を紹介した。
- また、当室と今治市農林振興課から、就農までの準備スケジュール、各種助成制度の説明のほか、管内の新規就農者の状況や県立農業大学校の紹介を行った。
- 講座を受講した高校生からは、「農業の難しさを知ったが、それでも農業がしたいと思えた」「やりがいの大きい仕事だと感じ、以前より農業に興味を湧いた」などの意見が聞かれた。



今治青年農業者協議会の活動を紹介



オンラインで講座を受講する高校生

■今治市生活研究協議会によるコロナ禍に対応した家庭向け食育活動を支援

- 地域農業育成室は、今治市生活研究協議会が2月9日に実施した家庭向け食育活動を支援した。
- これは、同協議会では、コロナ禍で小中学生を対象に実施している郷土料理等の実習ができないため、小中学生の子供を持つ家庭に、今治地域特有の甘みの効いた「いなり寿司」の具材を送付し、同協議会が作成したYouTube 動画を見ながら調理する方法を提案したもの。
- 参加者に対してアンケートを実施した結果、子供からは「上手く作れたので、またやりたい」保護者からは「いなりに酢飯を詰める作業を子供と楽しくできた」「これからも地元の食材を使って料理をすることで、食べることについて子供と話し合いたい」などの感想が寄せられた。
- 当室は、今後も引き続き同協議会と連携してコロナ禍でも実施できる食農教育活動を支援する。



いなり寿司の材料を梱包



モニター家庭で作られたいなり寿司

■ニホンザル対策について南予地域とオンライン意見交換

- 地域農業育成室は2月21日、南予地方局農業振興課と合同で、「令和3年度『ニホンザル対策』に係る意見交換会」をオンラインで開催した。
- これは、近年、ニホンザルによる被害が増加している今治と南予南部の市町等が意見交換を行い、対策の参考とするために当室が企画したもので、県及び市町担当者12人が参加した。
- 会では、県や市町の各組織から活動内容を発表するとともに、効果が上がっている事例や問題点等について意見交換した。
- 今治地域ではまだ取り組んでいないICT遠隔装置を用いた大型捕獲檻の運用方法について情報収集するとともに、南予地域で取り組んでいるサルの習性を活かした餌の設置方法は、当地域の猟師へ教授できる内容であった。
- 今後、当室は、サル対策に取り組む地域と情報共有しながら、効果的な対策を推進していく。



意見交換会の様子

東予地方局今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

■花き栽培農家が家族経営協定を締結

- しまなみ農業指導班は2月14日、今治市伯方町内の花き栽培農家の家族経営協定の締結式を行った。しまなみ管内での締結は19件となった。
- 同協定の締結により、パートナーシップによる女性の積極的な経営及び社会参画が期待されることから、当班では、今後も同協定締結の推進に努め、女性の積極的な社会参画と農家経営における地位向上等を支援する。
- なお、農家からは、同協定を機に「高品質な花き栽培を行い、経営発展に努めたい」との花き栽培の発展に取り組んでいく決意表明があった。



協定書に調印する関係者

■新規就農者の就農状況面談を実施

- しまなみ農業指導班は今治市、JA等と連携して2月15日から22日までの5日間、農業次世代人材投資資金を受給する新規就農者19人を対象に就農状況面談とほ場確認を実施。現在の経営状況や就農定着における悩み、技術指導の要望等を聞き取った。
- その結果、栽培に関する知識・技術の不足による生育不良、栽培条件の良い農地の確保が難しくスムーズな面積拡大ができないことによる収量の伸び悩み、個別販売の発送や資材に掛かる経費の増加等、定着に向けた多くの課題が判明した。
- 当班は、新規就農者が円滑に定着できるよう、これらの課題について農家ごとに解決策を検討し、栽培指導や経営指導等を通じ、関係機関と連携して引き続き支援を行う。



新規就農者のほ場で営農上の課題を聞き取る

東予地方局今治支局 産地戦略推進室

■甘長とうがらし栽培技術検討会の開催

- 産地戦略推進室は2月3日、甘長とうがらしの栽培技術確立のため、関係者6人出席のもと栽培技術検討会を開催した。
- 検討会では、JAおちいまばりから生産状況や病虫害発生状況の報告を、農林水産研究所と当室からは日射量に連動する自動かん水装置の実証試験結果等の報告を行い、次年度の新規病害対策や、かん水、施肥の技術改良の取組について意見交換した。
- 今年度は多雨の影響で病害の発生が多く、実証試験後半の正確なデータが得られなかったため、来年度は病害の発生に留意しながら、実証試験を継続するとともに、土壌中の肥料残存状況の調査等を行い、施肥量を見直すこととしている。



自動かん水装置による実証ほ場

中予地方局 地域農業育成室

■天敵を利用した施設なすの栽培開始

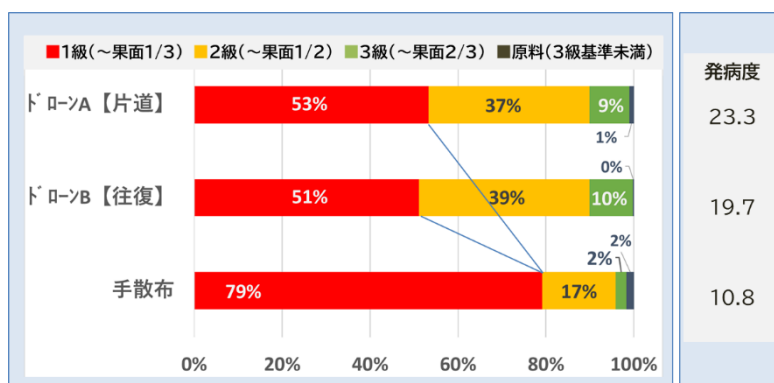
- 地域農業育成室は1月31日、定植直後の半促成施設なす（1戸、8 a）にタバコカスミカメ（土着天敵）を、2月25日にはスワルスキーカブリダニ（市販天敵）の放飼を行った。
- アザミウマ類防除は、薬剤抵抗性の発達や有効な薬剤が少ないことなど、対策に苦慮していることから、当室では天敵による防除を推進、指導している。
- 本年、管内の半促成施設なすでは、11戸、107 a で天敵を導入予定。
- 天敵の利用により薬剤抵抗性の回避や農薬の使用削減が見込まれ、今後は露地栽培においても実証ほを設置し、技術の普及を進める。



スワルスキーカブリダニを放飼

■傾斜かんきつ園地でのドローン防除実証、「せとか」黒点病防除効果を調査

- 地域農業育成室は2月2日、松山市堀江のJAえひめ中央新規就農研修センター堀江柑橘研修ほ場で「せとか」果実の黒点病調査を行い、昨年6月～8月に計3回実施したドローン防除効果を検証した。
- その結果、ドローン防除は、JA基準の1級品率は手散布に及ばないが、往復散布※により従来の片道散布より発病度を軽減できた(下図)。往復散布は、葉の裏面の薬液付着状況（散布時の感水紙調査）も片道より向上したことから、課題であった薬液付着ムラは、ドローン飛行方法の工夫により改善の傾向が見られた。
- 当室では、傾斜地露地かんきつ栽培管理のうち特に重労働である夏場の防除省力化を図ることにより、「柑橘王国えひめ」を支える伊予柑の生産量維持を目指す。



防除方法（ドローン片道、ドローン往復、手散布）の違いとJA家庭選別基準評価



調査はJAの新規就農研修生と実施(写真上・下)

※ドローン往復散布：往路と同じ飛行経路を引き返すことで、1樹に対し2方向から薬液がかかる。ドローンからの薬液吐出量は、片道あたり2分の1とする。

■農業経営管理研修会の実施

- 地域農業育成室は2月8日及び10日、松山地区農業経営者協議会と連携し、JA松山市興居島支所と愛媛県生活文化センターで農業経営管理研修会を開催し、認定農業者等17人が出席した。
- 本研修会は、認定農業者である同協議会員や就農初期青年の経営管理能力向上を目的にしたもの。
- 当日は、税理士による収支決算の講義、雇用労賃や福利厚生等に関する質疑応答を行った。その後、当室職員を含めて個別に記帳指導を行い、経営実態の把握と経営分析に向けて理解を深めた。
- 当室は、事務局として中予地域の認定農業者組織活動の活性化を図るとともに、認定農業者や就農初期青年の経営管理能力の向上を支援する。



税理士による収支決算の講義

■就農者への巡回指導を実施

- 地域農業育成室は2月7日から25日、農業次世代人材投資事業の経営開始型を利用した就農者29人（松山市27人・東温市2人）に対し、関係機関とともに個別訪問し、青年等就農計画等に対する農地利用や農産物の生産販売の進捗状況を確認し、優先すべき作業や対応等について提案する等の相談活動を実施した。
- 当室は引き続き、新規就農のフォローアップに向け支援する。



園地管理の確認と今後の対応を相談

■青年農業者2グループがそれぞれ2事業所と合同マッチング会を開催

- 地域農業育成室は松山市2地区（北条・平井地区）の青年農業者と連携して、B型就労継続支援施設との農作業体験マッチング会を開催し、青年農業者、同支援施設関係者、JA、市町職員等、延べ47人が参加した。
- 北条地区では2月8日、同支援施設「なないろ工房」「まこと」が「せとか」の果実被覆資材「サンテ」除去作業ののち被覆作業の練習を行い、平井地区では14日、同支援施設「ひらい園」「シェア」がかんきつの定植予定ほ場への土入れ、土ならし作業を行った。
- 各支援施設スタッフからは「何もかも新鮮で楽しく作業できた」「利用者同士の交流もあり勉強になった」との声が、参加した青年農業者からは「実際に障がいのある方がどんな風に働かかを見られてよかった」「思っていた以上に作業がはかどることがわかった。今後も色々な作業をお願いしたい」との声が聞けた。
- 今後、北条地区の青年農業者は定例会で検討し、グループ内で年間の作業カレンダーを作成のうえ、作業を依頼する計画である。
- また、かんきつ類の「サンテ」被覆は作業量も多く、農家から「気が遠くなる作業で一番やって欲しい作業」との声があることから、今回の農作業体験マッチング会全体の流れを動画編集し、次年度の作業として、果樹部会等で啓発活動を行っていく予定。
- 当室では、今後も両地区青年農業者の受委託がスムーズに実施できるように支援していくとともに、農福連携のより一層の理解促進を図っていく。



室内で「サンテ」除去作業



ほ場での「サンテ」被覆作業



土ならし作業

中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

■一次産業女子グループ「葉れるや」のマルシェ開催中！

- 伊予農業指導班は、伊予地区の一次産業女子グループ「葉れるや」のマルシェ開催を支援した。
- 当マルシェは、コロナ禍でイベントが中止される中、一次産業女子の知名度向上や農産物販売強化等を目的に、2月～3月の2か月間開催する。管内産直市の店内に作った「葉れるや」のブースに、メンバー8名が農産物などを出荷している。
- メンバーからは「予想よりも売上が伸びている」、産直市職員からは「ブースができたことで店内が明るくなった」「他の産直でもマルシェをしたらどうか」などと好評。一方で、「場所によって売れ行きが違う」「定期的にブース管理が必要」といった課題も見つかっている。
- 当班は今後も、メンバーと協議して販促活動や消費者への調査など、グループの活動を継続的に支援する。



「葉れるや」マルシェのブース

■砥部町青年農業者が、愛媛果試第28号のせん定見本樹を設定

- 伊予農業指導班は2月10日、砥部町青年農業協議会員10名の各園地を巡回し、せん定の見本樹設定を支援した。
- 見本樹は、地域の推進品目でもあり、会員の多くが栽培している「愛媛果試第28号」を対象に、各園1樹ずつせん定見本樹を設けながら、せん定技術の向上と果実の高品質生産を目的に実施したもの。
- 当日はJA営農指導員や普及指導員が、立枝や内向枝の切返し、残す枝、腰高果になりにくい枝などせん定の基礎を確認しながら、樹全体のせん定量15～20%を目安に会員とともに見本樹を設定した。
- 会員は、今後各園地の見本樹をもとにせん定を進めていく。



設定した見本樹を検討する
青年農業者

中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

■農業公園研修生が土壌分析結果をもとに施肥設計の方法を学ぶ

- 久万高原農業指導班は2月1日、農業公園研修生4人を対象としたトマト土壌の勉強会を開催した。
- 初めに、当班職員が土の性質や肥料の役割、必要な成分や用語の説明、研修ほ場の土壌分析結果の見方等を説明し、JA松山市の担当者からは久万高原トマト部会の施肥基準や各種資材の特徴等を話した。その後、個別の質疑に答える形をとり、研修生自らが施肥設計を行った。
- 研修生からは、「いろいろな肥料や土壌改良資材の役割がわかった」、「自分のほ場にあった資材はこれでよいか」など活発な意見や質問が出た。
- 当班は引き続き関係機関と連携して研修生及び新規就農者の技術指導を行っていく。



当班より土壌基礎を説明



研修生の質問に答える当班職員

中予地方局産地戦略推進室

■社員食堂の愛媛フェアで東温産パクチーのメニュー化が決定

- 産地戦略推進室は、中予管内産パクチーの需要拡大につなげるため、県東京事務所と連携して首都圏の飲食店等にサンプル提供するなど使用を働きかけていたところ、2月28日から3月5日に都内企業の社員食堂で実施される「愛顔溢れる愛媛フェア」の中で「愛媛県東温市産使用！パクチー入りつくね」としてメニュー提供されることとなった。
- メニュー化は、県東京事務所のほか、(有)愛媛サポーターズ（代表取締役 那須朗良氏）の協力を得て、給食事業者への働きかけなどにより、実を結んだもの。
- 当室では、パクチーを提供する東温市の生産者と食材を納品する同社のマッチングをサポートしており、今後、他の農産物の取引にもつながるよう支援するとともに、引き続き、パクチーの認知度向上・販路拡大に取り組む。



東温市産パクチーを使用した定食

南予地方局 地域農業育成室

■南予地域の農業法人の取組や農業の魅力を高校生に広く紹介

- 地域農業育成室は2月15日、農業分野への就職を希望する東予地区の高校生10人（1、2年生）を対象に、「南予農業魅力発信セミナー」をリモート開催した。
- 当日は、りの果樹園（西予市）と（株）ニューズ（伊方町）が、南予の農業や暮らしの魅力について紹介したほか、自身の農産物の加工品サンプルを高校へ送付し、実際に試食をしながら実施。
- 参加した生徒からは、「今後、栽培品目を増やす予定はあるか」「試食した加工品の値段は」等、質問があったほか、教諭からは「SDGsについてどのように社員に伝えているか」等、意見交換も行われた。
- また、21日には、東・中予地区の農業高校の進路指導担当教員7人を対象に、南予地域の農業法人の取組や農業の魅力を紹介する「第2回南予農業見学会」をリモートで開催し、大洲市の農事組合法人たいよう農園と楽天農業（株）が参加。法人での取組や農作業の様子等を紹介し、PRを行った。
- 本事業は今年度で終了となるが、当室は、新たな就農候補者の掘り起こしなど、今後も南予地域への若者の就農促進を図っていく。



南予地域の農業者と生徒が意見交換

■次年度のさといも増産に向けて

- 地域農業育成室は2月16日、18日、JAえひめ南の三間、津島、鬼北、愛南の4か所の営農センターでさといも栽培講習会を開催し、計31人に次年度に向けた栽培管理方法を指導した。
- 当日は、今年度局予算事業で取り組んだセル苗作成のポイントやドローンを活用した防除実証の報告に加え、生育調査の結果を踏まえ、改めて夏場の適正な水管理など基本管理を徹底するよう求めた。
- 生産者からは、追肥の方法やドローン防除の効果等について数多くの質問が出された。
- 当室は、今後も関係機関と連携し、さといもの栽培技術向上による増産を目指す。



栽培講習会

■新規就農者の技術力アップに向けニューファーマー講座を開催

- 地域農業育成室は2月18日、新規就農者の栽培技術や経営管理能力の向上を図るため、認定新規就農者ら8人を対象に、かんきつ類のせん定や苗木の定植方法について講習会を開催した。
- 当日は、摘果講習会の際に使用した園地において「甘平」、「ポンカン」、温州みかんをせん定。普及指導員が実演した後、参加者全員で1本の樹を仕上げ、理解を深めた。
- 参加者からは「明日から使える技術を学ぶことが出来た」「『せとか』のせん定方法についても知りたい」等の意見が聞かれた。
- 当室は、今後も研修会の開催を通して新規就農者の知識・技術力向上を図っていく。



農業者の質問に回答する
普及指導員（右）

■青年農業者が石積み技術を習得！

- 地域農業育成室は2月24日、宇和島市青年農業者連絡協議会が主催する石積み講習会の開催を支援した。
- これは、平成30年7月豪雨により崩壊した石垣が地区の園地内に多く残っていることから、参加した12人が自らの手で修復できるよう、石積み技術の習得を目的としたもの。
- 講習会では、以前に園主が独学で修復した後に、降雨によって再度崩壊したことから、地元の施工業者のアドバイスにより、少量の生コンクリートを使用した強度の高い施工方法を実践。
- 参加した会員からは、「1人での修復作業は難しいが、仲間と一緒にやることで効率的に取り組める」などの声があがり、今後は助け合いながら石垣修復に取り組むこととした。
- 当室では、地域農業の担い手となる青年農業者の育成のため、引き続き組織活動を支援する。



かんきつ園地の石積みを研修

■宇和島市玉津地区再編復旧かんきつ園地の営農再開に向けて

- 地域農業育成室は2月28日、平成30年7月豪雨災害で甚大な被害を受けた宇和島市玉津地区(白浦工区)で進む大規模区画整理工事の進捗や営農再開に向けた課題について、関係機関で共有を図るため、現地検討会を開催した。
- 当日は、宇和島市、JAえひめ南、地方局の実務者で構成する「営農支援班」に、みかん研究所を加えた13人が参加し、現地の状況を確認しながら、「愛媛果試第48号」などの有望品種を導入し、収益性の高い農業を実現するための方策について情報交換した。
- 参加者からは、整備園での土づくりの必要性や大苗供給体制の強化等の意見があがった。
- 当室では、再編整備園地に適した栽培方法を検討しながら、工事後にスムーズに営農再開できるようにスピード感をもって対応する。



再編整備の概要説明



土壌条件等を確認

南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

■新規大規模くり園本格準備開始！

- 鬼北農業指導班は、高級菓子店との連携による加工用果樹産地の育成を進めており、くりの大規模栽培による収益性向上などを説明しながら、栽培者の確保を目指していたところ、今回、本格的にくり栽培に挑戦する農家2戸が1.17haで新植することとなった。
- 2月3日、9日は、それぞれの農家に定植位置の決め方や植穴の準備方法、鳥獣害対策など、3月の植え付けに向けた作業のポイントを指導した。
- 当班は、今後、定植作業で福祉事業者と連携した取組もサポートするとともに、早期成園化に向けた指導を行いながら大規模くり経営体を育成する。



新植予定地と準備作業

■加工もも排水対策モデル園、さらなる樹冠拡大を目指す！

- 鬼北農業指導班は2月7日、15日、松野町の加工もも排水対策モデル園において、樹冠拡大に向けた支柱の更新と枝吊り作業を行った。
- これは、樹冠拡大に合わせて、金属の直管による支柱を主幹のみとし、安価な竹を主枝の添え木として誘引紐による枝吊りを行い、ほ場内（樹冠下）での作業性向上と更なる樹冠拡大促進を目的に実施したもの。
- また、当日は栽培予定者である地域おこし協力隊員2人に対し、枝吊りの方法や誘引角度等についての指導も合わせて実施した。
- 当班では引き続き、モデル園の早期成園化と講習会等の実施による技術の普及を図り、松野町の加工ももの生産量拡大を目指す。



栽培予定者への指導



作業後の園地



■新規栽培者向けきゅうり栽培塾の開催

- 鬼北農業指導班は2月17日、きゅうり産地の再興に向けた取組の一環として、新規栽培希望者ら7人を対象に「きゅうり栽培塾」を開催した。
- 当日は、露地きゅうり栽培に必要な基礎知識として生理生態を踏まえた栽培方法を中心に、初期投資額に加え農薬、肥料等の毎年必要な経費を勘案した目標所得などを説明。
- また、過去6年間の市場単価分析による高単価時期を狙った定植時期や、収量性の高い品種の選定、防除効果などを踏まえた農薬の選び方などデータを基に講習した。
- 今年度は新規生産者が2人増え、生産者の若返りも進んでいることから、次年度の新規栽培希望者にも継続的に指導を行いながら、きゅうり産地の再興を図る。



きゅうり栽培塾

■松野町産「さくらひめ」の品質向上に向けて！

- (株)松野町農林公社で栽培している「さくらひめ」は、10月定植したものが2月中旬から出荷されているが、計画より採花時期が遅れていることから、鬼北農業指導班は2月24日、需要期出荷に向けた栽培管理について指導した。
- 同社では、今年産は燃料代節約のため、昨年産よりハウス内の設定温度をやや低く設定したことが採花時期の遅れの要因であると判断し、需要期の3月出荷にピークをあわせるよう温度管理について指導した。また、2番花以降の秀品率向上に向けて摘心作業の時期についてもアドバイスを行った。
- 当班では、引き続き、採花や出荷調整作業の支援、秀品率向上に向けた栽培指導を行っていく。



採花時のほ場



出荷される「さくらひめ」

南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

■「河内晩柑」の適切な苗木植え付けで省力化を推進

- 愛南農業指導班は2月14日～16日、JAえひめ南と連携し、味楽共選南宇和支部35人を対象に「河内晩柑」の高樹高化防止を目的に苗木の適切な植付方法を指導した。
- 当日は、当班が調査した「河内晩柑」の自根が樹体に及ぼす影響として、自根が発生すると樹高が高く、着果量の減少が認められていることを説明し、特に、苗木定植後1～2年で自根の発生が多いという報告があるため、定植時には、植え穴を深く掘り過ぎないこと、台木との接ぎ木部分をしっかりと土の上に出すこと等を指導した。
- 今後も当班は、同JAと連携し、「河内晩柑」の作業の省力化を進めることとしている。



自根の悪影響について参加者へ説明



自根発生を確認する部会員

■ブロッコリー「根こぶ病」の実証結果まとめ、新たに春どり品種選定実証スタート

- 愛南農業指導班は、産地で問題となっているブロッコリーの難防除病害「根こぶ病」被害軽減を目的とした現地実証ほを令和3年4月～令和4年2月の間、愛南町内に1ヶ所設置して被害軽減対策を検討してきた。
- 調査は、薬剤とおとり作物（エンバク）に耐病性品種を組み合わせることで、発病リスクの高い9月定植でも被害低減が図られるか把握するため設置したもの。
- その結果、すべての調査区において「根こぶ病」は発生せず、良質な花蕾が収穫できることが確認できたため、今回の調査結果を取りまとめて2月以降、順次、農家に周知している。
- また、同町での春どり栽培に適した品種選定のため、JAえひめ南と協力して実証ほを設置することとなり、2月18日から候補となる1品種の定植を行った。さらに3月にはもう1品種の定植を予定している。
- 収穫期を迎える5月上旬ごろから病害発生状況等、品質調査を実施し、同町に適した春どり品種の選定に活用する予定。
- 当班では、今後もブロッコリーの長期安定出荷に向け、産地づくりを支援する。



出蕾期を迎えた根こぶ病対策実証ほ



新たに取り組む
春どり品種選定実証ほ

3：実証内容と結果

令和3年度 根こぶ病調査基準^(東北農研 セル苗)

- 発病程度1：微少な根こぶあり。又は根系の25%未満に根こぶあり。
- 発病程度2：根系の50%未満に根こぶあり。
- 発病程度3：根系の50%以上に根こぶ又は肥大した根こぶあり。セル苗部分にも根こぶあり。



発病程度1

発病程度2

発病程度3

3：実証内容と結果

令和3年度 生育・収量調査 結果

移植日 月日	出蕾調査		収穫調査				根こぶ病 発病度
	出蕾始 月日	出蕾期 月日	収穫始 月日	収穫終 月日	花蕾径 cm	花蕾重 g/個	
緑 竜 9.27	12.11	12.14	1.8	2.1	12.2	446	0
グリーン キャン (対照) 9.27	12.15	12.17	1.23	2.25	12.5	416	0
おはよう 9.28	12.9	12.11	12.28	1.24	12.2	423	0

※各品種とも、連続する10株×2区で調査。

※出蕾調査：花蕾径4cmで出蕾とした。出蕾始は調査区の10%、出蕾期は調査区の40～50%の株が出蕾した日。

※収穫調査：花蕾がLサイズ(花蕾径12～13cm)になった株を収穫し、調査した。

※発病度=各発病程度×各個体数/(3×全個体数)×100

根こぶ病対策パンフレット
(抜粋)

■就農相談会で就農を促す

- 愛南農業指導班は2月26日、JAえひめ南及び愛南町と連携し、マイナビ農林水産FEST大阪（就農相談会）に参加した。
- 新型コロナウイルス感染対策のためWebでの開催となったが、写真や図を活用して工夫を凝らし、同町における就農や研修の受入れ体制について説明した。
- 参加者からは「専門学校への進学を考えていたが、農業もやってみたい」「移住者に若い人はいるか」などの質問等があった。
- 当班では、新規就農者を確保するため、関係機関と連携し、就農相談会や農業体験ツアー等に取り組んでいく。



大阪会場の相談者と画面越しで対話

南予地方局 産地戦略推進室

■ゆず部会役員会で縮間伐試験の結果を報告

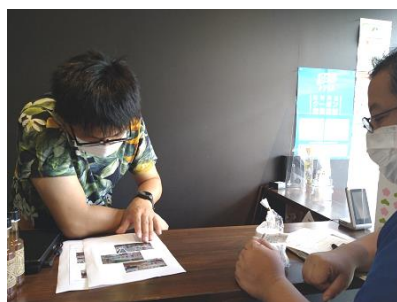
- 産地戦略推進室は、2月4日に開催されたJAえひめ南ゆず部会役員会において、今年度実証したゆずの縮間伐による作業性改善効果について情報提供を行った。
- 管内では約600人の生産者がゆずを栽培しているが、高齢化が進む一方で、古くからの園地では枝と枝が込み合い、収穫等の作業性が低下していることから、計画的に一部の樹の枝を切り詰めていき（縮伐）、その後伐採する（間伐）試験を実施。縮伐後1年目の樹では、単位時間当たりの収穫果数が慣行樹に比べて約30%多くなった結果を報告し、出席した生産者からは「最近収穫しきれない園地も増えている中で、収穫効率が上がるのであれば興味深い」との話があった。
- 当室では引き続き、ゆず栽培の省力化に向けた「縮間伐」や「低樹高」などの樹形改善に取り組み、ゆずの生産振興を図る。



ゆず部会役員会

■6次産業化に取り組むうめ生産者の商品をブラッシュアップ

- 産地戦略推進室は、「コロナ禍での売れる商品づくりプロジェクト」（農産園芸課）の一環で、6次産業化に取り組む松野町うめ生産者が販売する商品のブラッシュアップを支援した。本プロジェクトは、新たな商品開発や既存商品の改良等を支援し、生産者の所得向上に繋げるのが狙い。
- 同生産者はうめを使ったシロップや調味料を開発し、直売所や百貨店等で販売しているが、より多くの人に商品を知ってもらうため、当室では、特徴やおすすめの使い方を記した商品タグの作成を生産者に提案。内容やデザイン等について協議を重ね、2月9日から、完成したタグを付けた商品を店頭を設置した。
- 生産者からは「利用方法を効果的に知ってもらうことができ、早速、追加注文があった」、「デザインもおしゃれで大変好評」との感想があり、当室では引き続きタグ設置の効果を検証し、商品の販売拡大に繋げることにしている。



生産者との打ち合わせ



今回作成したタグを付けた商品



■令和3年度「第9回南予マルシェ」を開催

- 南予地方局と八幡浜支局の産地戦略推進室は2月15日、宇和島恵美須町商店街で「第9回南予マルシェ」を開催。今回は、「道の駅みま」「道の駅清流の里ひじかわ」「佐田岬はなはな」の産直施設ほか、6次産業化に取り組む「企業組合津島あぐり工房」「菓子工房KAZU」が出店した。
- 今回、初出店した「佐田岬はなはな」からは、目の前で焼き上げる「ちりめんホットサンド」が出品され、寒い中買い求める客で賑わったほか、「企業組合津島あぐり工房」の米粉パンを使ったサンドイッチや手作り弁当、「菓子工房KAZU」の旬のフルーツを使ったスイーツなどが特に人気を集めた。
- 3月は、8日に八幡浜銀座商店街、15日に宇和島恵美須町商店街で開催する予定にしており、引き続きコロナの感染防止対策を徹底し、南予の農産物の販売促進・PRに取り組む。



初出店の「佐田岬はなはな」



ちりめんホットサンド



地元農産物を使った手作り弁当

南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

■農事組合法人の経営力強化に向けた研修会を実施

- 地域農業育成室は2月3日、局予算事業「西宇和地域柑橘集落営農支援事業」に係る第2回目の経営者育成研修会を開催し、管内で設立された農事組合法人（笑柑園ナカウラ、楽蔵）の構成員ら8人が参加した。
- 今回の研修では労務管理とかんきつ栽培におけるマルドリ技術をテーマに、専門家を講師に招き実施。参加者は労働保険等の加入により発生する費用の計算方法やマルドリ技術の導入方法と早期成園化を目指した管理について学んだ。
- なお、笑柑園ナカウラでは法人所有の樹園地5aの緩傾斜化を行い、3月に「愛媛果試第48号」を植栽しマルドリ施設を導入する計画で、現在、作業を進めている。
- 当室では、法人の経営力強化と技術の向上が図られるよう今後も継続して支援を行う。



専門家を講師に研修会を実施

■一次産業女子目線で農業の魅力発信！

- 地域農業育成室は、就農希望者や若者への農業の魅力発信に取り組んでおり、管内一次産業女子グループ「∞農 Harvest（はちのうは一べすと）」メンバー5人とともに2月19日、県が実施する「オンライン農業体験ツアー in えひめ2022」にオンラインで参加した。
- 参加したメンバーはパソコンの画面を通して自己紹介を行い、地域のかんきつ生産の状況や農業研修制度、移住就農の状況などについて紹介を行った。
- 県外の就農希望者との意見交換では、「収穫以外の時期は何をしているのか」「収入が得られるまでに何年かかるのか」などの質問があり、就農に必要な資金や農地の確保、かんきつ栽培の主要作業とその時期、就農後の生活等についてアドバイスを行った。
- ツアーに参加したメンバーは今回のオンラインでの意見交換で、現地からの情報発信不足やかんきつ栽培のノウハウを知ってもらふ必要性を感じたことから、当室は、同グループの活動支援を通じて、今後はYouTubeでの農作業紹介やオンライン園地見学会などを企画し、より多くの人に農業の魅力が伝わる取組を進めていく。



県外の就農希望者にかんきつ栽培について説明するメンバー

■急傾斜地かんきつ園のスマート農業推進に向け、広島県の普及組織と情報交換を実施

- 地域農業育成室は2月16日、広島県西部農業技術指導所とスマート農業の推進についてWeb会議による情報交換を行った。
- 広島県の西部地域は、西宇和地域と同様に急傾斜地の園地が多く、労働力の軽減を図るためスマート農業技術の普及が急がれており、今後の普及指導活動の参考にしたいとの要請を受け実施したもの。
- 当日は、令和元年度から当室が取り組む気象ロボット、アシストスーツ、AI選果機の実証成果等を紹介。また、広島県からは、国の「次世代につなぐ営農体系確立支援事業」で取り組む急傾斜地かんきつ園でのドローン防除実証と関連する補助事業等について報告があり、スマート農業の推進上の課題や方策について情報を共有した。
- 当室では、今後もスマート農業技術に関する他県の情報収集を行うとともに、今回のWeb会議の結果等を踏まえ、スマート農業技術の地域への普及に取り組む。



スマート農業の推進に向けた情報交換

■八西地区の農業振興を農業指導士と意見交換

- 地域農業育成室及び産地戦略推進室は2月17日、八幡浜支局で八西地区農業改良懇談会を開催。当日は、管内農業指導士と関係機関（八幡浜市、伊方町、JAにしうわ）の担当者20人が出席した。
- 支局からは、令和3年度の普及ビジョンの中から、スマート農業、労働力確保、「川田温州」の推進に関する活動実績と、今年度、新規就農者の確保を目的として制作した八西農業PR動画の紹介等を行うとともに、市町、JAの農業振興方針等について、情報を共有した。
- また、農業指導士との意見交換では、「収穫期のアルバイト確保については、継続して支援して欲しい」「ドローン防除の普及には、登録農薬の適用拡大が急務」「移住就農者は倉庫の確保に苦労しており、補助事業による支援をお願いしたい」等の意見や要望が出された。
- 両室では今回出された要望・意見について、今後、関係機関で対応を協議するとともに、引き続き農業指導士及び市町・JAとの連携を密にし、担い手の確保・育成や産地強化等の継続的な支援を行う。



農業振興について農業指導士と意見交換

■快適な作業環境への改善を目指し、農作業安全研修会を開催

- 地域農業育成室は2月22日、当室が支援する八西地区青年農業者連絡協議会の構成組織である川上青年産業部の作業環境改善に関するプロジェクト活動支援の一環として、農業機械の安全使用に関する研修会を開催し、会員10人が参加した。
- 同青年組織は快適な作業環境への改善を目的に、園地トイレの案内板設置やアシストスーツの普及等に取り組んでおり、今回は、農作業安全研修を通じて、園地での安全な作業の実施について検討するために行ったもの。
- 当日は、西予市の認定農業者である菊池俊一郎氏を講師に、参加者はチェーンソー・刈払機の安全使用、清掃やグリス交換の方法、さらに、こうした保守管理が農作業事故防止につながることの説明を受けた。
- 参加者からは「園地で、チェーンソー・刈払機を安全に使用する注意点が良く分かった」等の声が聞かれ、快適な作業環境に向けた農機具の安全使用と事故防止に関する意識を高めることができた。



説明を熱心に聞く青年農業者



講師によるチェーンソーの目立ての実演

八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

■研修生の就農をサポートチームで支援

- 大洲農業指導班は2月8日、大洲市新規就農サポートチームの活動として、研修生を受け入れているJA出資型法人「(株)Pi-Nokyoたいき」からの要請を受け、研修生3人の就農計画について個別面談を実施し、補助事業など支援策の情報提供と就農に向けての課題等について協議した。
- 今回の面談は、研修生それぞれが就農に向けて重要なタイミングとなる研修1か月後、1年後、独立就農直前の時期となったことから、JA資金担当者も加わり実施したもの。
- 特に、2年間の研修計画のうち1年目が終了した研修生は、栽培技術のスキルアップはもとより、令和4年度から始まる「経営開始資金」や「経営発展支援事業」の活用に関する理解を深めてもらうとともに、経営品目の選定の他、農地や資金の確保などの支援が必要であり、未成年であることから、親族を交えて家族の同意や理解を得るための面談でもあった。
- さらに、就農直前の研修生は、夫婦でいちご栽培を主とした経営を目指しており、本年度中の「農業次世代人材投資事業」の交付要件となる青年等就農計画の認定に向けた書類等の確認が必要なため、当班は、日本政策金融公庫等の資金利用計画の進捗状況などを関係者で共有し、就農後のスムーズな支援策について助言した。

■新規鳥獣管理専門員がイノシシの捕獲に成功！

- 大洲農業指導班が活動支援を行っていたJA愛媛たいきのえひめ地域鳥獣管理専門員が、2月16日に雌のイノシシ2頭（成獣1、幼獣1）の捕獲に成功した。
- 同専門員は、このほど今年度の実践講座を修了し、新たに鳥獣管理専門員に認定された。受講開始時から当班や大洲喜多猟友会と連携した活動を展開しており、(株)野生鳥獣対策連携センターの阿部豪氏の協力のもと、大洲市森山荒平地区に複数のわなを設置。栗や銀杏園などを荒らす有害獣の捕獲に向け、当班は園地周辺の侵入痕の確認や設置場所に関する助言などを行っていた。
- 当班では、次年度も同専門員と連携した活動を計画しており、今回の活動事例をモデルケースとし、他地域への波及を目指す。



捕獲されたイノシシ（成獣推定40kg）

■高品質生産に向けていちご農家を巡回

- 大洲農業指導班は2月17日、18日、JA愛媛たいき及び病害虫防除所と連携し、JAいちご部会員全戸（30戸）のほ場を巡回し、生育状況確認と病害虫調査を行った。
- 本年産いちごは、出荷開始が平年より1週間ほど遅れたものの、生育は順調。
- 調査では、ハダニ、コナジラミ、灰色かび病の発生が一部ほ場に見られたことから、今後、発生のシーズンを迎えるアザミウマの対策資料を配布するとともに、防除指導を行った。
- 気温上昇に伴い、さらに病害虫の発生増加が懸念されることから、当班では定期的な巡回を継続し、素早い病害虫対策に取り組んでいく。
- なお、「(株)Pi-Nokyo たいき」の研修生がいちご栽培での就農を計画しており、今後3年間、毎年1人ずつの新規栽培者を確保できる見込み。当班では研修生に対して経営計画作成指導や技術的な助言等を行い、スムーズな経営開始に向けた支援に努める。



ほ場ごとに病害虫調査

■認定農業者と青年農業者の合同研修会を2年ぶりに開催

- 大洲農業指導班は2月24日、大洲喜多地区認定農業者協議会（会長：藤田秀美）及び同地区青年農業者連絡協議会（会長：河内章）と連携して合同研修会を2年ぶりに開催し、会員など25人が参加した。
- 当日は、大幅な人数制限や時間短縮などのコロナ感染防止対策に加え、参加できない会員向けにライブ配信するなど、工夫を講じて実施。大洲市、内子町の各青年農業者協議会のプロジェクト発表や大洲農業高校生の研究成果の紹介、特定社会保険労務士の中田亮氏による「農業における労務管理と経営改善」についての講演を行った。
- プロジェクト発表では、コロナ禍で希薄となった消費者と生産者をつなぐためのSNS立ち上げから情報発信、新規作物（アボカド）の導入試験、キウイフルーツにおける受粉作業の省力化等、様々な取組についての報告があった。
- 発表会の審査員として参加した農業指導士からは、「ネットワークづくりを大切にして、着実に歩んで欲しい」と青年農業者へのエールがあり、藤田会長は「認定農業者の経験と知識、青年農業者の豊かな発想と行動力、お互いに力を合わせて大洲喜多の農業を盛り上げたい」と意欲を語った。



参加できない会員向けに研修会の模様をライブ配信



労務管理について意見交換

八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

■いちごの高品質栽培に向けた若手普及職員研修を開催

- 西予農業指導班は2月2日、南予地方局、八幡浜支局管内の若手普及指導員等8人を対象に、いちご栽培の知識を深めることを目的とした研修会を開催した。
- いちごの指導経験が豊富な先輩普及指導員を講師に、生育調査方法や西予地域での生産・販売動向などについての研修のほか、現在流通している全国の銘柄いちごの特徴を把握するため、栃木県の「スカイベリー」、静岡県の「紅ほっぺ」、佐賀県の「いちごさん」など計7種類の食味調査を行った。
- また、現地研修として、JAひがしうわ農業センターにおける担い手確保のための研修制度やいちごの栽培状況について学習した。
- 参加者からは、「葉色だけでは追肥のタイミングが判断できないということを初めて知った」「他県の品種と比較したことで、県が育成した「あまおとめ」や「紅い雫」の美味しさを改めて感じた」などの意見があった。
- 今後も南予地方局及び八幡浜支局では、普及指導活動に必要な様々な研修の場を設け、若手普及職員の指導力向上を目指す。



いちごの食味調査



JAひがしうわいちごハウスでの研修

■いちごIPMの推進 天敵であるアザミウマを放飼

- 西予農業指導班は2月4日、25日にいちごの重要害虫であるアザミウマ類の天敵であるアカメガシワクダアザミウマの放飼を行った。
- アザミウマ類の防除に関して、管内では天敵の活用はされていないことから、天敵実証ほを12月6日から設置し、2週間ごとにアザミウマ類のハウス内への発生状況を調査している。
- 本天敵は大型のアザミウマで、その成虫と幼虫が害虫であるアザミウマ類の幼虫を捕食し、脱皮の進んだ大きな幼虫も食べることが特徴である。
- 2月以降はアザミウマ類の多発時期であることから、当班は今後、天敵の定着状況や被害程度等について調査し、防除効果と導入による経済性を検討することとしている。



天敵資材が入った容器



天敵を放飼する普及指導員

■災害を乗り越え、農業法人が野村町内にスイーツ店をオープン

- 西予農業指導班が経営再建や6次産業化の取組等を支援してきた野村町の「有限会社フローラルクマガイ」が2月11日、町内にいちごのスイーツ店「KUMASAN CAFE」をオープンした。
- 同法人は平成30年7月豪雨災害で、当時栽培していたシンビジウムが甚大な被害を受けたことを契機に、いちごとミニトマト栽培に転換し、経営を再建。災害を乗り越え、生産が安定してきたことから、6次産業化にもチャレンジしていた。
- 6次産業化に関して当班では、冷凍保存したいちごを利用したいちごシロップ等の試作を支援し、県内のパティシエに監修を依頼。このほど、飲食施設の整備が完了し、提供メニューも決まったことから開業に至った。
- スイーツ店は土日祝日のみの営業で、自社で生産したいちごと地元産の食材（牛乳、さつまいも等）を使ったアイスクリームやプリン、クレープなどを提供しており、メニューも増やしていく予定。
- 当班では、今後も6次産業化に関心のある農業者を支援し、農家所得の向上につながる活動を展開していく。



整備された飲食施設「KUMASAN CAFE」



提供されるスイーツ

■加工・業務用青ねぎの生育・収穫予測システムについて開発会社らと導入を検討

- 西予農業指導班は2月16日、(株)百姓百品村と香川県農業試験場及び香川県がシステム開発を委託している民間会社をリモートで結び、加工・業務用青ねぎの収穫予測システムに関する検討会を開催した。
- 加工・業務用青ねぎは、実需者との契約出荷となり定時・定量出荷が求められるが、露地栽培では気象条件に左右されやすく、複数回収穫を繰り返すため、常にほ場ごとに生育状況を把握して計画出荷する必要がある。
- このため、生育シミュレーションに必要となる野村地域の気象や定植日、刈取り回数、草丈、収穫日、出荷量等のデータを提供し、本システムの開発に携わった香川県農業試験場とシステム会社で入力を行い、当該地域版の予測システムが概ね完成したことから、動作の確認など最終的な検討を行った。
- 当班は、予測システムを導入することで、作付け前や栽培期間中の生産予測により計画出荷が可能となることから、活用を促し生産拡大を支援する。



リモートでシステムの動作について確認

■フィンガーライムの加工品開発に向けて始動！

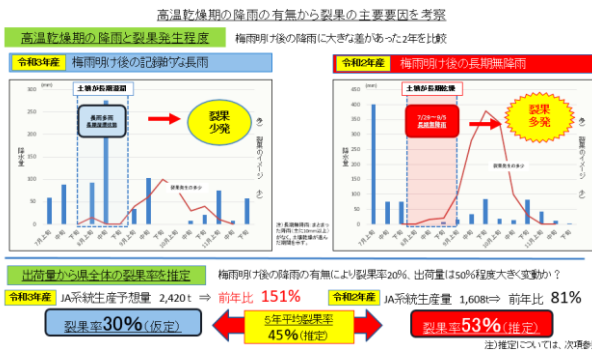
- 産地戦略推進室は2月14日、フィンガーライムの加工品開発に向けて、産業技術研究所及び生産者で打合せを行った。
- 管内のフィンガーライム栽培面積が2aから30aに増加し、生産量も大幅な増加が見込まれることから、今回、販売方法の多角化を見据えて関係者で協議を行ったもの。
- 当室から栽培状況や今後の生産量の見通しを説明した後、生産者からは品種の違いによる果実特性や理想とする加工品について、また、産業技術研究所からは保存の際の殺菌方法や添加物利用等について提案があり、意見を交わした。
- 4月以降にサンプルを提供し、産業技術研究所で加工品の経時的な品質変化や品種別の特性等を調査しながら開発を進めていく予定。



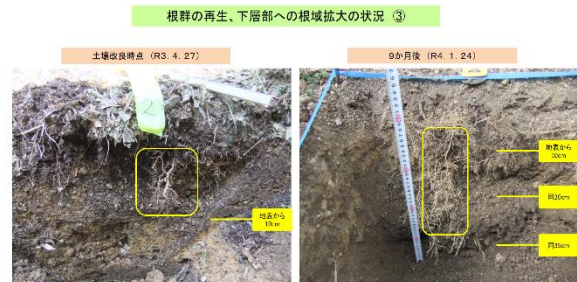
農産園芸課 高度普及推進グループ（2月）

■「甘平」の裂果対策に向けた現地実証から裂果メカニズムを解析

- 高度普及推進グループは、「甘平」の裂果対策技術の有効性を確認するために、本年度に各普及拠点と取り組んだ裂果軽減の現地実証結果を基に効果的な裂果対策を取りまとめた。
- 当グループでは、昨年8月の果樹調査研究会で、令和3年度産の裂果率は、梅雨明け後の記録的な長雨により土壌が湿潤に保たれたことから大幅に低くなることを予測。実際の県下JAの出荷量が前年比約1.5倍に大幅に増加する見込みとなったことから、本年度の裂果率は、当グループの試算で前年比20～23%程度と大きく低下していることを確認した。
- また、県下の実証では、9月以降の土壌乾燥が進んだ期間もかん水により根域の土壌水分を安定して湿潤に保つことに成功した園は、裂果の発生を15～20%程度までに抑えた一方、着果過多による樹勢低下や果実の生育ストレスの増加により果皮の薄い果実となった園は、裂果が多発したことから、かん水による裂果抑制の効果を得るためには、適正着果等の一般管理により樹体や果実の適切な生育を促すことが必要不可欠であることを確認した。
- 当グループは、取りまとめた実証結果及び裂果対策を3月に開催する普及指導員果樹調査研究会で報告するとともに各普及拠点からの本年度の調査報告を受けることとしており、裂果対策の効果について協議することにより裂果対策技術の確立、普及を図る。



R2、3の降雨と裂果率との因果関係の考察



裂果対策に取り組んだ園の根域拡大実証結果

■「ひめの凜」食味値に影響する栽培要因を分析

- 高度普及推進グループは、「ひめの凜」の良食味栽培技術の確立や全国規模の食味コンクールでの入賞を目指す「ひめの凜金賞プロジェクト」の実証結果等から、食味値に影響する栽培要因を分析した。
- 本年度の県下での実証結果及び同コンクールで高い食味スコアを出している農業者の栽培実態調査から、追肥等による幼穂形成期以降の肥効と、出穂以降の根の状態が食味値低下に影響していると判明。地力窒素（土づくり）に重点を置いた栽培体系で、登熟期に直下根を長く細根を多く維持するために、出穂以降はかけ流しかん水等で湿潤を保ち常に水を動かすことが有効と考えられた。実証結果からは、加えて分けつしやすい品種特性から、基肥を控え過剰分けつを抑制することが重要であることが示唆されている。
- また、「ひめの凜」認定栽培者から提出された栽培管理記録より、令和3年産「ひめの凜」の栽培方法による収量、品質を分析。窒素施肥量を8 kg/10 a 以下にすることが収量確保、品質向上に有効であることも判明。
- これらの分析結果や知見については、県下の普及指導員や研究員に共有するため3月に開催する作物調査研究会で報告することとしており、ポテンシャルを引き出す栽培法の確立、普及を図ることで「ひめの凜」の高品質生産、ブランド化を進める。



報告用資料（一部抜粋）

今後の方向

<R3 実証結果>

- 地力の異なる圃場で細かく施肥設計を分けた試験を実施
- 基肥を抑え過剰分けつを抑制し、追肥を行わず地力窒素主体で、出穂以降灌水させない栽培体系が食味値向上には有効と確認
- 入賞を狙うためには、食味値だけでなく味度値の向上も必要（合計180点以上は必要）

R4「ひめの凜」金賞プロジェクト（継続）

- 【各普及拠点】用水や地力を考慮し、協力農家及びほ場を選定は場条件に応じた地力（土づくり）または基肥を主体とした施肥設計、水管理を実施
- 【高度G + a】地力の簡易測定、食味値+味度値向上の栽培試験 良食味栽培における土づくりや地力窒素の指標把握

コンクール入賞に向けて良食味米としてのポテンシャルを引き出す栽培方法の確立を目指す

報告用資料（一部抜粋）

■栽培現地と研究機関、県庁、地方局等を結んだ遠隔診断の実施

- 高度普及推進グループは、2月8日、西条市において、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用し、現地ほ場と県下で知見を有する研究員や防除所職員、他局の普及指導員等を映像で結び、遠隔での診断を行った。
- 今回の診断は、いちご果実内部が空洞・コルク化し、果実肥大や着色が不良となる症状の原因究明を生産者から依頼され、当グループが企画したもの。当グループでは、事前調査を通じ、土壌成分指標の1つであるEC値は同一ベッド内でも偏りがあること、さらに展葉の遅れや生理障害、根の褐変等の発生を確認。診断当日、栽培状況とあわせて説明した。
- 参加者からは「果実の当該障害果は肥大期以前に受けた何らかのストレスによる、ホウ素等の要素欠乏症状」といった意見が挙げられたが、その要因は「定植後の高温となり疲れによる地下部の不足」「培土内部に蓄積した肥料成分による養水分の吸収阻害」など、複数の意見が挙げられた。
- 当グループでは、当該ほ場状況を継続して確認するとともに、3月にはポラスカップ（素焼き管）等を用いて抽出した土壌溶液の詳細な成分分析を実施する予定。なお、当診断の詳細や分析結果については、3月に開催する普及指導員野菜調査研究会でも報告する予定で、養液管理技術の確立、普及により高設いちご栽培における高収量技術の確立を目指す。



研究機関、地方局等が参加した遠隔診断画面

2 先絞り果の発生について（今作で初めて発生）

- 芯が空洞化し、進行すると、ずい部分を含めて褐変する模様。着色後も食感硬く、甘みや酸味をほぼ感じられない。
- 外見上は着色期まで判断難。当該果はまだらに着色し、果実を触ってみると中央部にやや凹みを感じられる。
- 症状発生株は高設栽培の約 11,000 株中、100 株程度と推定されるが、栽培ベンチの列によって偏りが大きく、多いところで1割を超える。
- 当該株の症状は頂花房だけでなく、第一次腋花房（以後、第2花房）まで連続して発生。



<生産者のコメント>

- ①「草薺」への先祖返り株又は突然変異株を親株として苗採りした結果ではないか？
- ②定植前の夜冷処理時における花芽分化の異常ではないか？

(理由)

- ①発症株は果実の肩が張らない縦長の円錐形が多く、圃場内で発生箇所が集中的であることから、トレー単位で発生＝共通の親株から採った苗であると推察。

配布した事前調査資料

■リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用した害虫遠隔診断の実施

- 高度普及推進グループは、2月22日に環境保全型農業調査研究会を開催し、県下13拠点と農林水産研究所、みかん研究所をネットワークで繋ぎ、害虫診断の基礎知識を習得する講座を開催するとともに、新たに普及拠点に配備したタブレット端末を使用し害虫の遠隔診断を実施した。
- 講座では、農林水産研究所で長年害虫の診断を担当した研究員が講師となり、害虫を形態的な特徴等により見分けるポイント等をわかりやすく説明した。
- タブレット端末を使用した遠隔診断では、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用し、実際に各普及拠点と県庁、研究所をつなぎ現地で種別が判別し難かった害虫の診断が行われた。また、同診断では肉眼では判別が出来ない1mm程度の微小な虫についてもスマートフォンのカメラにマクロレンズを付け撮影、診断が行われており、ピントの合わせ方やタブレットの固定方法などについて研修が行われた。
- 当グループでは、同システムによる遠隔診断に高度な現地指導体制の確立を進めるほか、診断を通じ現地で撮影される貴重な映像についても同システムでのデータベース化を進めており、これらの活動を通して若手職員の育成、指導力向上を図る。



ベテラン職員の講義「害虫・天敵・ただの虫」



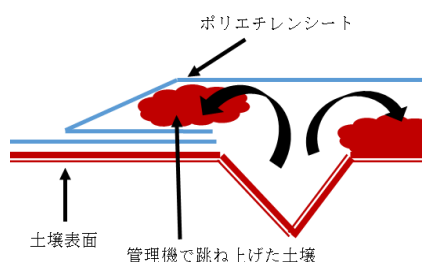
拠点を結んだ害虫のテスト診断

■露地しょうがにおける土壌病害の発生抑制に向けた土壌消毒実証

- 高度普及推進グループは2月24日、主要産地で問題となっている土壌伝染性病害の発生抑制に向け、大洲市の農業法人が栽培する露地しょうがの土壌消毒処理方法を確認・指導した。
- 技術提供を受けている高知県でトップクラスの収量を上げている農業法人のアドバイスを踏まえ、土層の深部までくまなく消毒するため、事前にトラクターで十分に深耕して均平に整地した後、自走式消毒機等を用いて土壌消毒剤をムラの無いよう土壌中に注入。さらに消毒効率を高めるため、ポリエチレンシートで全面を被覆する際、シートを重ね合わせからガスが揮散しないよう管理機で跳ね上げた土でシート端を固定した（図参照）。
- 被覆処理は約1ヶ月実施する予定で、当グループは今後、定植以降の生育状況及び病害発生程度を調査することとしている。
- なお、同法人では、今年度「普及組織先導型革新的技術導入事業」を活用して、高張力鋼管パイプを使用した低コスト大型ハウスを導入しており、当グループは引き続き、病害の発生抑制に向けた栽培技術の確立を図りつつ、県産しょうがの周年供給体制の確立を目指す。



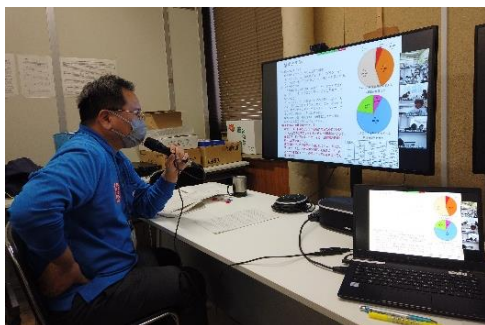
管理機によるシート端の固定



隙間なくほ場全面をシートで被覆

■流通・経営調査研究会で、卸売市場及びJAの共選販売を分析


- 高度普及推進グループは2月8日に、流通・経営、6次産業化の指導に係る普及指導員の技術を高めるため、第5回普及指導員流通・経営調査研究会を開催した。
- 当日は、リモートで43人が出席し、流通・販売担当係長が、卸売市場及びJAの流通・販売（共選販売）の実態について講習した後、意見交換を行った。
- 講習では、当グループが松山中央卸売市場を利用する際の荷受から代金決済までの流れや市場評価を上げるポイント等について具体例をあげて説明した。
- また、JAの「愛媛果試第28号」の精算金の算出方法を実際の精算伝票等から説明するとともに、市場、産地側の意向や方針を分析し農家指導に活かすことについて説明。講習後は、実際の取引等を基に意見交換を行った。
- 当グループは、今後も実践的な講習、個別指導等を通じ、流通・販売、6次産業化の専門的な技術を指導し、普及指導員の資質を向上させていく。



市場流通の実態等を解説する講義

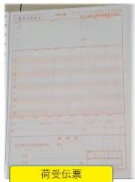
3 松山中央卸売市場（丸温青果）に出荷する （出荷から代金決済までの流れ）

1 荷受け・荷下し（前日15時～0時頃）
※イチジク等品目によっては当日朝受けあり。




事務棟(事務所)

卸売市場へ農作物を搬送し、
①事務棟（事務所）にて受け付け。
②担当者に荷降し場所の指定を受け、荷降ろし。
③数量をチェックし、担当者とともに事務棟にて荷受伝票を作成（3枚複写）
④荷受伝票の複写1枚を受け取り出荷終了。



荷受伝票

2 価格形成



前日の価格が、中央掲示板に表示。

卸売市場の流通実態に関する講習画面

農産園芸課 企画調整グループ（2月）

■普及指導計画取組状況報告会をリモートで開催

- 企画調整グループは、2月7日に県庁及び各普及拠点、試験研究機関等をリモートで結び普及指導計画取組状況報告会を開催した。
- 同報告会では、各普及拠点から普及指導計画（普及ビジョン）の取組状況について報告し、農林水産部長をはじめとする部内関係者等から意見を聴取した。
- 同会は、一昨年まで県庁会場で開催されていたものの、昨年よりリモートでの開催としたことで、従来よりも多くの職員の参加が可能となるとともに、会議の様子はリアルタイム農業普及指導ネットワークシステムのデータベースに録画データとして登録することにより、より多くの職員の視聴が可能になっている。
- 今回、聴取できた指摘や意見等は、3月に当課が開催する次年度の普及計画策定のためのヒアリングでも再度検討することとしており、次年度以降の普及計画やプロジェクトに反映させることにより効果的な普及活動を推進する。



報告会視聴会場（県庁）



報告会視聴会場（県庁）

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543